

文久三年十一月十五日より文久三年十一月廿日まで

P8311057 right

下ケ緒賀贈し来る旨

十六日未 晴

菊池より本日は先づ紅葉山下御門へ出る様報告し来る、昨本<sup>レ</sup>持退、書類取調として組頭以下  
役々

五拾名余来る、一同午飯茶菓等差出せし旨、例斎早め登宮紅葉山上御供所へ閣参はじめ  
役々一統仮詰所に相成、別手組へ吹上御庭口植木御門外、一ヶ所<sup>レ</sup>三ヶ所、御固被仰付金港

出張の面と

帰り来る、御座所は清水明き御館へ粗御詰定、田安御館をも御取結相成旨にて、

同館の向は外山

尾州邸へ移転の積りにて、荷物運輸方等の有しよし

十七日申 晴

今日も支配向に<sup>□</sup>■・・■午飯用達申付敷、広沢(悦)来る、田中(兼)金港帰着懸ける、

出(午時より)

殿、本日清水館、御座所被為移候旨、御書付出る、黄窪へ鋏児迎の者遣し帰り来る、

病<sup>□</sup>より

P8311057 left

当分の儀に付縷々聞■書通差越す

十八日酉 晴

由比(太)北行御用建白請書持参、本日より清水館へ出勤、竹橋を大手御門、清水御門を

平川口御門の格に相成■

鉦児痘瘡に付、医道玄を呼び薬剤を乞ふ、藤沢(大)来り、鶏卵許<sup>□</sup>一籠贈らる

十九日戌 晴漸陰

関女今日<sup>□</sup>引取に付、雇料へわ<sup>□</sup>に乾鯉五を添て謝す、痴雲方へ一昨の返書へ欧州

見聞録を添

為持遣す、山田三郎目見に来る一面して粗、極め遣す、午時より出 殿竹橋内供方減省<sup>\*</sup>(この

御書付

出る、<sup>□</sup>助方より菓子折、伊助方より同一袋翫物類、旧北堂よりも手遊類等、鉦児痘瘡尋

賀せらる

牛姑同断来り、菓子翫物等贈らる、医道玄来る、柳亭来る、牛姑共に泊宿

廿日亥 晴

\*<sup>1</sup>:減省(げんせい)、減らすこと

( )内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

<sup>□</sup>印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。